

報告

創成学習「つたえること」と「ものづくり」

齊藤隆仁¹⁾、佐藤高則¹⁾、大橋眞¹⁾、桐山聡²⁾

(1) 徳島大学総合科学部、(2) 徳島大学創成学習開発センター

(キーワード: 共通教育、創成学習、コミュニケーション)

Innovative and Creative Learning Activities “Communication” and “Creation”

SAITO Takahito, SATO Takanori, OHASHI Makoto, KIRIYAMA Satoshi

(1) Faculty of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima

(2) The Center for Innovation and Creativity Development, The University of Tokushima

(Key words: general education, innovation and creativity, communication)

1. はじめに

文部科学省は2003年度から教育面での大学の意欲的な取り組みを選び、資金を重点的に配分する新規事業「特色ある大学教育支援プログラム(略称: 特色G P (Good Practice))」を公募し、徳島大学の「『進取の気風』を育む創造性教育の推進」のテーマが採択された。^(1,2) これは自立的、能動的な思考、さらに知恵を生み出すことを目的として、これまで主として工学部により、創成科目の設置、プレゼンテーションによる評価法の開発を中心とする組織的な取り組みが行われてきた。

2005年度より、徳島大学全学共通教育の教養科目群にて従来の講義形式、ゼミナール形式に加えて、創成学習形式が開始された。共通教育段階では課題についての目的や目標を自分たちで議論をして決め、グループワークで問題を解決していき、達成したものをプレゼンテーション(発表)して、互いに評価する。⁽³⁾ 2005年度は11の創成学習の授業が提供されたが、この報告においてはそのひとつ『創成学習「つたえること」と「ものづくり」』における実践として、最初の6週に行った『割れないたまご容器の作成』の概要および成果について報告し、今後の展望について考察してみたい。創成学習形式は

新しい取り組みであって、教員にとっただけでなく、学生にとっても試行錯誤の点が多々ある。ここで報告する実践は、成功した例というわけではない。ここでの悪戦苦闘の様子を報告することにより、他の授業への取り組みの一助としていただければ幸いである。

2. 授業の概要

最初にシラバスに記載した「授業の目的」、「授業の概要」、「到達目標」を抜粋する。

【授業の目的】

一人ひとりが問題を発見し、知恵と情報を総動員し、新しい自分自身の解を見出す訓練を通じて、自らを創成することを目的とする。誰かが素晴らしいアイデアを持っていたとしても、それを上手に他人に伝えることができなければ、正しく理解・評価されずに不利益を被ることがある。人と人との関わりで成り立っている社会において、「つたえる」技術は普遍的に重要であると言える。ところで、高度な機械や生物等の複雑なしくみ、概念を相手に伝えるのに、百万言費やしても充分でない場合が多々ある。そのような場面で実際に「もの」を見せることができれば文字通り一目瞭然で言葉の問題は解消さ

